



NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会

MANO a MANO

会員数 **332人**
コメディカル会員 **221人**
医師会員 **111人**

管理栄養士派遣事業登録者数 **31人**

NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会
〒185-0012 国分寺市本町3-10-22 コイントプラザ402
TEL : 042(322)7468 FAX : 042(322)7478
<http://www.nishitokyo-dm.net/>

担当理事からのあいさつとお知らせ

広報（ホームページ）担当 西田賢司

皆さん、こんにちは。理事の仕事というのは何種類もあるのですが、私は現在、植木先生と共に広報を担当させていただいております。現在の府中病院にきてからちょうど8年で、多摩地域にもほぼ8年間、現在のNPO法人化される前の西東京臨床糖尿病研究会時代からかわらせていただいております。

さて、医療でもいわゆるIT化が進んでおり、皆さんも個人で、あるいは職場でインターネットを使える環境の方が多くなってきていることと思います。今回、当NPO法人でも事業の一つとしてホームページを立ち上げることになりました。この会報が皆さんのお手元に届く頃には、見られるようになっていく予定です。

内容は、見ていただければおわかりになると思いますが、当法人の沿革・組織の紹介、直接・間接事業（西東京糖尿病療養指導士認定事業は特に大きな事業なので特に1項目割り当てられています）、管理栄養士派遣事業などで、入会申し込みもできるようになっています。また、会員専用のページも設けておりますので、将来的には情報交換なども考えています。

できたてで、まだまだ不備な点も多いとは思いますが、皆さんの役に立つようなホームページにしていきたいと思っておりますので、こんな情報を載せてほしいなどのご要望・アイデアなどがあれば事務局までお寄せください。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

研究会等のご報告

多摩糖尿病チーム医療研究会

さる3月16日(火)、間接事業の一つである「第16回多摩糖尿病チーム医療研究会」は、緑風荘病院が担当医療機関として企画運営を行い特別講演として開催されました。杏林大学第3内科教授の石田均先生を迎えて、「-糖毒性、SU剤二次無効について-」との演題で、講演をして頂きました。

また、「-療養指導士は何を何処まで話せるのか? 事例紹介・こんな時どう話せばいいの?-」とのテーマで、コメディカルの立場(看護師・薬剤師・栄養士・検査技師・トレーナー)、Drの立場(大学病院・基幹病院・診療所・一般病院)でパネルディスカッションを行い患者さんの側に立って色々な面からアプローチすることの重要性がより明確になりました。



第8回東糖協多摩ブロック糖尿病教室

3月20日にJR武蔵境駅北口の武蔵野スイングホールにおいて、第8回東糖協多摩ブロック糖尿病教室が開催されました。当日は“雪”という生憎の天気の中でしたが、100名を越す方々にご参加いただきました。今回は、家族の方にも興味をもって頂きたいとの思いから『家族でふれあう糖尿病』をメインテーマに置きました。ご講演としまして近藤医院院長の近藤甲斐夫先生に「糖尿病って遺伝するの?」という題目でお話いただきました。40分程の講演でしたが、カエルの写真も出てくるおもしろい内容で、題目の肩苦しさもなくとてもわかり易いお話でした。

テーマ2に「家族にも知ってもらおう糖尿病」として、小柳貴子先生(東大和病院看護師・糖尿病看護認定看護師)、松森晴美先生(近藤医院看護師・糖尿病療養指導士)に様々な事例を交えながら家族が関わることの重要性につきまして、ご講演頂きました。引き続きパネルディスカッションとしまして、座長に宮川高一先生(多摩みなみクリニック院長)、コメンテーターに薬剤師の馬場孝道先生(小平市薬剤師会会長)、看護師の小柳貴子先生、訪問看護師の小原さつき先生(小平市医師会訪問看護ステーション)、管理栄養士の浦部康雄先生(公立昭和病院栄養科科長)、健康運動指導士の小池日登美先生(多摩みなみクリニックトレーナー)の方々で行いました。日頃から患者さんに接して、いろいろな悩みを聞かれている先生方の話に、参加された方々も身近な事として共感を持って聞かれていました。



認定式のご報告

第4回西東京糖尿病療養指導研究会認定式平成16年4月8日（木）19:00より立川女性総合会館（アイム立川）にて開催されました。

参加された方は92名（欠席：25名）で、開会の辞をNPO法人西東京臨床糖尿病研究会理事長公立昭和病院貴田岡正史先生よりいただきました。続いて試験総評をNPO法人西東京臨床糖尿病研究会副理事長多摩みなみクリニック宮川高一先生よりいただきました。認定証授与がNPO法人西東京臨床糖尿病研究会認定委員長武蔵野赤十字病院菅野一男先生より行われました。



第4回認定者職種構成（117名）

認定者職種	人数
栄養士	21
看護師	62
薬剤師	22
その他	11

特別講演では、聖マリア病院 副院長の布井清秀氏より「糖尿病療養指導におけるエンパワーメントアプローチを目指して」という演題でご講演頂きました。講演では、聖マリア病院における「患者さんを含んだチーム医療の実際」について御紹介頂きました。患者さんの生活・病態・心理社会的背景を見据えたアプローチ方法、患者さん自身が自分の力を発揮し成果に期待できる段階的目標の設定方法、患者さんの入院前・入院中・退院後の援助のポイント、などにもお話を頂きました。目標設定には「様々な答を知っているのは患者さんのみ」という患者主導型の教育方針が重要であり、構造化された開かれた質問などができるCDEを目指して欲しいと強調されました。最後に「地域CDEが無ければ地域密着型の治療の展開は難しい。今後は、行政・医師会・医師・CDE・糖尿病協会などによるチーム医療が重要となる」とご講演を締めくくられました。最後に閉会の辞を都立府中病院の西田賢司先生にいただきました。



年間スケジュール

現時点での情報となりますので、追加変更がありましたら、順次掲載いたします。

- 5月29日(土) NPO法人西東京臨床糖尿病研究会第35回例会・総会(小金井公会堂)
- 6月5日(土) 武蔵野糖尿病研究会(武蔵野赤十字病院)
- 6月20日(日) 第1回西東京糖尿病療養指導研修会(CDE J1群認定申請中)
- 6月23日(水) 多摩糖尿病チーム医療研究会 薬剤師分科会(国分寺Lホール)
- 7月10日(土) 第3回西東京CDE研究会(府中グリーンプラザ けやきホール)
テーマ『地域に貢献できるLCDEの活動 1次予防・2次予防へのアプローチ』
- 7月24日(土) 西東京EBMをめざす糖尿病薬物治療研究会(国分寺Lホール)
テーマ『インスリン抵抗性』
- 9月11日(土) 第5回糖尿病予防講演会(前進座/吉祥寺)
- 10月9日(土) NPO法人西東京臨床糖尿病研究会第36回例会(西国分寺)
- 9~10月 第5回西東京糖尿病療養指導士連続12回講座
- ☆5月28日・6月25日 実践栄養指導勉強会開催予定

<書籍出版のご案内>

「ヒヤリ・ハット事例に学ぶ 糖尿病看護のリスクマネジメント」



監修： 貴田岡正史(公立昭和病院)

菅野一男(武蔵野赤十字病院)

編集： NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会

B5判 並製 2色

192頁 2,600円+税 医学書院

販売対象：糖尿病療養指導士、医師、その他糖尿病治療に関わる全ての人
ペン型注射器の不具合、自己血糖測定の見間違い。

小さなヒヤリ・ハットが、大きな医療事故につながる。

本書では、インスリンや食事療法など糖尿病看護に関わるヒヤリ・ハット事例を取り上げ、P-mSHELLモデルによる要因解析の実例を紹介。なぜヒヤリ・ハットは起きたのか。どうして事故は防げたのか。事例を深く分析すれば、ヒヤリ・ハット対策が見えてくる！

事務局からのお知らせ

会報の愛称決定 「MANO a MANO」

会報の愛称募集に多数の応募をいただきありがとうございました。全てのご応募愛称を対象に理事・評議員の多数決により上記のように決定いたしました。「MANO a MANO」(マノアノ)とはスペイン語で「手から手へ」という意味で、医師、コメディカル、患者が「手から手へ」つながるよにこの意味がこめられているそうです。その他、同率2位で「ステップ」「WELL」が候補でした。これからも「MANO a MANO」をよろしくご愛用致します。

—お詫びと訂正—

先月号の年間スケジュールの武蔵野糖尿病研究会の日程が間違っておりました。

誤 6月6日(土) 正 6月5日(土)

申し訳ございませんでした。

4月29日(木)から5月9日(日)まで事務局はお休みを頂きます。
どうぞよろしくお願い致します。